

- 11 武藤昌知・赤松信實——リグラ狀裂頭條蟲(第一回報知)。京都醫學會雜誌 Vol. XIV.
- 12 勝沼精造——腸内寄生蟲と糞便検査蟲卵検出。東京醫事新誌 No. 2260.
- 13 奥村多忠——リグラ裂頭條蟲の發育環について。東京醫事新法 No. 2220.
- 14 坂本修・露木寛——名古屋地方犬猫寄生のリグラ狀裂頭條蟲の成蟲について。皮膚科記要 Vol. II No. 20.
- 15 山田司郎——蛙におけるリグラ狀裂頭條蟲に就いて。大阪醫學會雜誌 Vol. XX No. 7.
- 16 山田司郎——リグラ狀裂頭條蟲の發育環について。日本醫學 Vol. IX No. 7.
- 17 吉田貞雄——猫のリグラ狀裂頭條蟲。動物學雜誌 Vol. XXVIII No. 327.

(昭和三年二月拾日)

本邦産數種の未記録種並びに新種の甲蟲

(和昭三年六月拾一日受領)

土 井 久 作

本編には本邦より未記録の甲蟲四種及び一新種を記載す。此等の五種は步行蟲科 Carabidae, 葉蟲科 Chrysomelidae, 及び瓢蟲科 Coccinellidae, の三科に屬するものにして、廣く千島、樺太、朝鮮、臺灣に産するものなり。

此等五種の中三種は恩師松村先生、一色、高野兩農學士、高木五六氏、伊藤茂治氏並に E. GALLOIS 氏の採品にして、二種は著者自身の採集にかゝるものなり。

本文を記するに先だち日頃指導に預づかる恩師理、農學博士松村松年先生に衷心の謝意を表すると共に、標本を採集されたる前記の諸氏に對し永く其の恩恵を歌はんとす。尙ほ友人關口俊雄氏は繪畫に助力を與へられたれば同様深謝を捧ぐ。

步行蟲科 Carabidae

Nebria nitidula FABRICIUS チシマルリゴミ(新稱)

FABRICIUS, Spec. Ins. 1, p. 184 (1781); HEYDEN, Cat. Col. Sib. p. 14 (1880-81); JACOBSON, Käf. Russl. p. 260, t. 1, f. 24 (1910).

記載 頭部、前胸、翅鞘の縫合線の兩側は光澤ある暗紫色、翅鞘の兩側は光澤ある綠色、觸角、肢及び體の裏面は黑色なり。體長 10—11.5 耗。

頭部 顔面の兩側に近く、各一個の凹所を有す。上唇は黑色。大腮は黒褐色。觸角は體の半ばに達し、基部の四節は光澤ある黑色、他節は光澤を缺き黄色短毛を密生す。第二節は最短にして、第五節は最長なり。眼は黑色、大形にして隆起す。

前胸 僅かに隆起す、中央に縦溝を有す、該縦溝は前部及び基部の横溝と合す。基部は著しく縊らる。兩側縁は隆起し、其の内方は溝を形成す。

翅鞘 基部に於いて遙かに前胸より廣く、長楕圓形を呈す。極めて美麗にして、青藍色、紫色、金色、綠色等の縦帶を次の如く排列す。中央に廣き青藍色帯を有し、その外部に極めて狭き紫色帯あり、その外側は狭き金色帯にして、その外側に廣き綠色帯を有す。又凸縦條を存す。該條間には所々に小孔を有す。

體の裏面 光澤ある黒色。個體により暗褐色を呈するものあり。

肢 脛節末端及び跗節には褐色毛密なり。脛節末端の距は長く、跗節末端の爪は長形にして彎曲す。此等は何れも褐色を呈す。

產地——北千島(占守島、幌筵島)

分布——北千島、カムチャツカ、シベリヤ(アルタイ山脈、ヤクーツク、コルゴン川)。

著者は一九廿六年八月七日幌筵島荒川に於いて夜間採集の歸途清流の邊に一種を得たり。同年八月占守島城ヶ崎に於いて夜間多數を採集せり。城ヶ崎附近にありては夜間漁舍附近の砂上を歩行すること多し。

本種は未だ本邦より記録なき珍種にして、美麗なる光澤を有し、歩行蟲類中美なるものの一なり。本種の北千島に産するは北千島昆蟲相の anomalous feature の一にして、北千島昆蟲相がカムチャツカ昆蟲相に affinity を有するを説明する一事實なり。本種の雄は體長僅かに大なること、前跗節が幾分膨大せる點に於いて雌と區別し得。

葉蟲科 Chrysomelidae

Crioceris nigritarsis DOI (Fig. 1) new sp. カラフトアカハムシ
(新稱)(第一圖)

記載 頭部、前胸、翅鞘及び肢は黃褐色、觸角、眼、體の裏面及び腿節の基部、膝、並びに跗節は黒色を呈す。體長 6.6 耗。

頭部 眼の後方は著しく縊られ、兩眼間には一個の深き縦溝を存す。眼溝は深し。顔面は三角形にして黃色毛を以つて蔽はる。其の下部は暗色なり。上唇は黒色にして細點刻を有す。大腮は黒色。觸角は約體の半ばに等しく、基部の四節は光澤を有し、他は密毛を以つて蔽はる。第二節は甚だ短く、第四節より先端に漸次長形となる。

前胸 殆ど四角形にして、圓筒形に近し。兩側は中央に於いて深く縊らる。表面には點刻密にして、基部には一個の淺き溝を有す。稜狀板は三角形にして黒色を呈し、其の中央は赤色光澤を有す。



Fig. 1 *C. nigritarsis*

翅鞘 前胸より遙かに廣く、稍隆起す。基部の下方に淺き凹所を有す。兩側縁及び縫合部は稍隆起す。

體の裏面 點刻密に、細毛粗なり。末端の三節は黃色を呈す。

肢 腿節肥大す。脛節の末端及び跗節には細毛多く、跗節末端の爪は漆黑色にして基部にて相離る。

產地——樺太(榮濱)

分布——樺太

一九一四年八月二十日、一色、足立の兩氏により一雄を採集せられたり。本種は本州に普通なる *C. subpolita* MOTSCHULSKY に類似するも、體小形に、點刻荒く且つ肢は黃色を以つてする點により相違す。

Crioceris nigritarsis DOI (Fig. 1) new sp.

Head fulvous, deeply constricted behind the eyes, with a deep longitudinal groove between the eyes; orbital grooves distinct; face triangular, covered with yellow pubescence, its lower part stained with dark; clypeus finely punctured, black; labrum and mandibles black. Antennae about half the length of the body, black, the four lower joints shining, the rest covered with close pubescence, the second joint extremely short, the fourth to the terminal joints gradually elongate.

Thorax fulvous, subquadrate, subcylindrical, sides deeply constricted at the middle, with a shallow basilar groove, fulvous; upper surface finely punctured. Scutellum triangular, black, its middle stained with red.

Elytra fulvous, much broader than the thorax, subquadrate-oblong, indistinctly convex, shallowly depressed transversely below the basilar space, very deeply punctate-striate, interspaces impunctate, being subcostate the outer margin and suture. Underside black but the terminal three abdominal segments fulvous. Legs fulvous, but femora, knees and tarsi stained with piceous.

This species closely allied to *C. subpolita* MOTSCHULSKY, smaller, more coarsely punctured; legs fulvous.

Length:—6.5 mm.

Habitat:—Saghalien (Sakaehama), one mal specimen was collected on the 20th of August, 1914, by S. ISSHIKI and J. ADACHI.

Corynodes undatus OLIVER, オホアカガネハムシ(新稱)

Cryptocephalus undatus OLIVER, Encycl. Méth. VI, p. 614 (1791).

Eumolpus bifasciatus OLIVER, Ent. VI, p. 900, pl. 1, f. 5 (1808).

Eumolpus gröndalii SWARTZ in SCHÖNH. Syst. Ins. I, pt. 2, p. 235, nota 1 (1808).

Corynodes flosculus MARSHALL, Journ. Linn. Soc., Zool. viii, p. 37 (1865).

Corynodes undatus JACOBY, Fauna Ind. Col. II, p. 493, pl. 2, f. 12 (1908);
CLAVAREAU, SCHENKLING's Col. Cat. pars 59, p. 165 (1914).

記載 頭部、胸部、體の裏面及び肢は紫藍色。翅鞘は極めて美麗なる紅藍色にして金屬光澤を有す。體長9—13 耗。

頭部 顯著なる點刻多く、中央に凹陷溝を有す。頭楯は一層細密なる點刻を有す。兩側には凹陷を有す。上唇は黑色、大腮は黑色なり。觸角は短小にして體の半ばに達せず。第二節は最短、第七節は扁平の度を増し三角形を呈す。次餘の先端節は何れも三角形を呈し、漸次先端に大きさを増す。黑色を呈すれども、基部三節は黒赤色の光澤をなし、其の他の節には青紫色の光澤を有す。眼は顯著ならず、黑色を呈す。

前胸 略、圓錐形を呈す。極めて隆起す。表面には頭部より大形にして且深き不規則なる點刻を有す。稜狀板は略、三角形にして、基部及び先端は僅かに凹陷す、光澤ある青綠色(個體により紫色を呈す)にして微細なる點刻を有す。

翅鞘 表面には深く且つ接近せる點刻條を有す。該點刻條は整然ならざれど、基部縫合線に於いて消滅せる一條を加ふる時は十七條を數へ得べし。中央には縫合線の部より斜に兩側に向つて走れる廣き紫色帶を有す。先端の三角狀をなす紫藍色の部は縫合線に沿ひ上に向ひ、翅鞘の略、中央に達す。

體の裏面 全體紫色、中胸板には青色光澤を有す。前、中、後胸板には微小なる點刻を粗生すれど腹面には密生す。

肢 青藍色の光澤を有す。脛節末端には黃色毛著しく、跗節末端の爪は相分離す。

產地——彰化城(臺灣)、落馬州(支那)。

分布——臺灣、支那、印度、ビルマ、シヤム、マラツカ、カンボヂヤ、交趾支那。

本邦には從來 *Corynodes* オホアカガネハムシ屬(新稱)のものは只僅かに沖縄より *C. japonica* JACOBY オホミドリハムシ(新稱)なる一種に過ぎざりしが本研究により二種となれり。臺灣産のものは恩師松村先生の御採集にかゝるものなり。又落馬州産のものは農學士高野秀三氏の採品にして、南支那の要津香港に寄港せられし時得られ、著者に惠與されたるものなり。

Eustetha gloriosa BALY (Fig. 2) テフセンオホミドリハムシ
(新稱)(第二圖)

Eustetha gloriosa BALY, Journ. of Ent. I, p. 296 (1861).

Eustetha gloriosa FAIRMAIRE, Rev. d'Ent. VI, p. 334 (1887),

Galerucida gloriosa WEISE, Schenkling's Col. Cat. Pars. 78, p. 140 (1924).

記載 頭部、前胸及び翅鞘は綠色にして、前胸及び翅鞘には紫色の金屬光澤を有す。觸角は黑色。體の裏面は青綠色にして紫色の光澤を具へ、肢は紫色に輝く。體長8耗。

頭部 表面には深き點刻を粗生す。兩眼間には顯著なる凹所あり。

觸角は太く短く體の半ばに達せず。基部の三節は光澤ある漆黑色にして、藍色の金屬光澤を具ふ。他節は暗黑色にして、光澤を缺く。第一節は最長にして末端膨大。第二節は球形にして最短。先端の七節は第四節と略同長なり。眼は黑色、大形、隆起す。

胸部 横は縦の二倍餘に達す。僅かに隆起す。略中央に顯著なる縦溝を具ふ。該縦溝は中央に於いて判然せず。表面には深き點刻を密布す。該點刻は基部に於いて大なり。

翅鞘 楕圓形にして隆起す。表面には不規則なる點刻を密布す。只縫合線に近き部にのみ三條の點刻條を見る。美麗なる綠色にして紫色の金屬光澤を有す。該紫色帶は翅鞘の大部分を占むるを以つて綠色部は兩側、縫合線の部及び背部に著し。

體の裏面 綠色にして紫色の光澤を有す。

肢 太く、腿節には微小なる點刻を有す。黃色絹糸狀毛を密生す。殊に脛節及び附節に著し。腿節、脛節は紫色の金屬光澤を有す。

產地——シュオツ(朝鮮)、Taiyudong(朝鮮)。

分布——朝鮮、支那。

本種は朝鮮に於いては稀ならざるが如し。伊藤茂治氏の語る處に據れば本種は葡萄を喰害する事多しと。本種の本邦よりの記録は本文を以つて嚆矢とす。

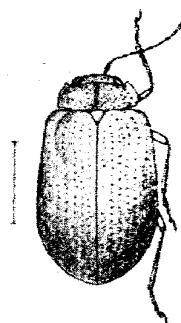


Fig. 2 *E. gloriosa*

瓢蟲科 Coccinellidae

Coccinella nivicola ESCHSCHOLTZ (Fig. 3) チシマダイヤモンドトウ
(新稱)(第三圖)

Coccinella nivicola MÉNÉTRIÉS, MIDDENDORFF'S Sibirische Reise II. Bd. 1, p.

55 (1851); MOTSCHULSKY, SCHRENCK's Amur-Reise Bd. II, p. 245 (1860); HEYDEN, Cat. Col. Sib. p. 216 (1880-81); JACOBSON, Käf. Russl. p. 982, t. 29, f. 19 (1910).

記載 頭部、胸部、體の裏面は黒色、翅鞘は赤色にして其の表面には五個の大形黒色斑を有す。體長7耗。

頭部 微小なる點刻を密布す。眼の内側に各一個の黄色斑點を有す。又眼の前方にも各一個の小黄斑を有すれど肉眼にて見るを得ず。上唇は黒色にして點刻多し。大腮は黒色なり。眼は黒色大形にして隆起す。觸角は短小にして基節及び先端節は黒色なれど其の他は暗褐色を呈す。

前胸 表面には頭部より稍、微小なる點刻を密布す。兩側の前角には三角形の黄色斑を有す。稜狀部は先端鋭き三角形にして、黒色を呈し、表面には微小なる點刻を有す。

翅鞘 五個の黒色斑中一個は稜狀部の下部縫合線を中心として存し心臟形をなす。其の他の二個は翅鞘の後半に位し、不正形なる三角形をなす。二個は翅鞘の後半に位し、翅鞘の先端に近き部に頂點を有する三角形を呈す。表面には微小なる點刻多し。

體の裏面 微小なる點刻を密布し、黄色短毛を密生す。

肢 腿節太し、特に後肢に於いて著し、跗節末端の爪は各黒褐色を呈す。腿節には微細なる點刻多く、脛節及び跗節には黄長短毛密なり。

產地——南千島(擇捉島)、中部千島(得撫島)

分布——千島、カムチャツカ、シベリヤ(バイカル湖、アムール等)。

本種は千島にても珍奇なるが如し。著者は一九二七年七月二十九日擇捉島指臼山(海拔3723尺)に登山し、其の草本帶に於いて一種を得たり。同年九月三日得撫島床丹に於いて一種を得たり。本種が擇捉及び得撫の兩島に産するは昆蟲分布上注意すべき一事實にして、吾人の現今の知見を以つてせば本種は北海道を経て千島に分布せるものに非ずしてカムチャツカより南下せるものなるべし

E. MÉNÉTRIÉS (1851) は MIDDENDORFF's Sibirische Reise II. Bd. 1. に本種を初めて學會に發表し“ESCHSCHOLTZ が暫らく前、本種をカムチャツカより本名を附し送附し來れるを以つて、該名を茲に持續す。”たる旨を附記せり。

於北大農學部昆蟲學教室。



Fig. 3 *C. nivicola*